

さらなる推進をめざして



下水道新技術研究発表会を開催



3月11日に大阪で、第16回下水道新技術研究発表会を開催しました。講演では、岡久宏史国土交通省都市・地域整備局下水道部下水道事業課長が下水道をめぐる最近の話題「平成23年度下水道事業予算」について、加藤裕之国土交通省都市・地域整備局下水道部下水道企画課下水道事業調整官が「海外ビジネス展開の現状と展望」についてそれぞれご講演いただきました。その後、本機構職員による研究成果報告が行われました。

技術委員会で6テーマを審議

3月1日、本機構会議室で平成22年度第3回技術委員会を開きました。部門別新技術実用化評価委員会に関する研究4課題、部門別共同研究委員会に関する研究6議題を審議しました。また、新たに共同研究を始める「下水道マンホールふたの調査・診断・更新に関する共同研究」について諮問するとともに、21年度に諮問した「千島下水処理場沈殿池高速ろ過施設の性能評価研究」について答申が行われました。



40件の審査証明書を交付



平成22年度建設技術審査証明事業（下水道技術）の民間開発技術40件に対して本機構会議室で審査証明書を交付しました。これらは、技術全般にわたる詳細な審議や現場確認などの結果、その性能や独自性が確認された技術で、新規15件、取得後5年を経過した更新15件、変更10件となっています。有効期間は5年後の3月末までで、新規技術の累計は今回で239技術となりました。3月8日の交付式では、石川理事長が技術開発に携わった各社代表に審査証明書を直接手渡しました。

横浜市で現場研修会

2月9日、新技術現場研修会を開きました。今回は横浜市環境創造局の協力を得て、同市・北部汚泥資源化センターの現場を訪れ、PFI事業と汚泥集約処理施設を視察しました。参加者は市職員が編集したビデオにより施設の概要を学習。さらに三班に分かれ、一際目を惹く巨大な卵形消化タンクや消化ガスエンジンの発電機、焼却炉などを視察。出席者は施設内を歩きつつ、環境にやさしい取り組みを写真やメモで熱心に学んでいました。



国際標準化動向に高い関心



本機構会議室で2月10日に開かれた第290回技術サロンでは「下水道の国際標準化動向」をテーマに、本田康秀国土交通省・都市地域整備局下水道部下水道企画課課長補佐と、藤木修下水道新技術推進機構研究所長がそれぞれ熱のこもった講演を展開されました。各方面から高い関心が寄せられている話題のテーマだけに、多くの参加者が詰めかけ、最新知見に耳を傾けていました。